

ごみ分別アプリによる 災害ごみ情報の周知

神奈川県川崎市

- 人口※ 1,552,270 人
- 自治会加入率 58%
- 実施時期 令和3年度～

※令和6年12月10日時点自治体ホームページ掲載情報

取組むことになったきっかけ

川崎市は令和元年6月に「川崎市災害廃棄物等処理実施計画」を策定しました。また、災害時のごみの出し方について、令和元年東日本台風での対応を踏まえながら、市民・事業者へ伝えたい事項をまとめたリーフレット『災害が起きた時の「ごみ」のこと』を令和3年3月に作成し、平時から広く周知を行っています。

これらの情報をもとに、多数の市民がダウンロードしているごみ分別アプリを活用して、「災害廃棄物」のコンテンツを新たに加えて令和3年から配信を開始しました。



リーフレット『災害が起きたときの「ごみ」のこと』

取組内容

資源物とごみの様々な情報を発信している「川崎ごみ分別アプリ」は、これまでに20万以上ダウンロードされています。アプリのトップページに新たに配置された「災害廃棄物」のアイコンから、以下の情報を容易に見ることができます。

- ・災害が起きてから出るごみってどんなもの？
- ・災害が起きても分別はするの？
- ・片付けごみは出し方が違うの？
- ・災害に備えてやっておくことは？ 等

基本的には、市の Web サイトから情報を発信するものの、できるだけ多くの人に情報が届くよう本アプリが活用されています。

■ 予算：改修内容により異なる



川崎ごみ分別アプリの画面

トップページのテロップ部分に“台風で収集が中止になる可能性があること”等を、発災前に職員が発信することができます。災害時には、資源物・ごみの収集状況等が配信される予定です。



自治体の声

多言語対応が課題ですが、今後も平時及び災害時の広報手段の一つとして活用していきます。